H27　県基礎学力調査及び，全国学力・学習状況調査の結果から

①全国・県平均との比較

【国語・数学】全国・県平均との比較（A・・基本的な力を問う問題，B・・活用力（応用力）を問う問題）

【理科】　　全国・県平均との比較（理科は，基礎的・活用力の両方を問う総合問題）

【社会・英語】県平均との比較（県独自の調査で全国との比較はありません）

	国語A	国語B	数学A	数学B	理　科	社　会	英　語
全国との比較	◎	◎	○	○	◎		
県との比較	○	○	□	▽	○	○	▽

※凡例　◎上回っている　○少し上回っている　□ほぼ同じである
▽少し下回っている　▼下回っている

②各教科の分析・対策

【国語】　「読むこと」では，A，Bともに上回っている。「書くこと」ではA問題において上回ったが，B問題においてはやや下回っている。選択式の問題では正答率が高いが，記述問題においては，やや正答率が低くなる傾向が見られる。

【正答率が低かった問題】
○単語の類別について問う問題。「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する問題。
○資料の提示の仕方を工夫し，その理由を具体的に書く問題。
○根拠を明確にして自分の考えを書く問題。

【改善策】
○漢字の読み書きについて反復練習の時間確保に努め，基礎・基本と文法事項の定着を図る。
○相手や目的を意識させた上で，読んだり・話し合ったりしながら読みを深める活動を増やす。
○ドリル形式でより多くの問題に取り組ませ，内容を捉えて考える練習を行う。

【数学】　「数と式」の領域では，国平均を上回り，県平均とほぼ同じであった。「図形」「関数」の領域は，国平均を上回っている。「資料の活用」の領域が，国平均とほぼ同じであり，最も苦手としている領域である。

【正答率が低かった問題】
○「関数」での「反比例のグラフ」に関する問題。
○「資料の活用」の領域での「与えられた情報を見通しを持って読み取って分類整理し，説明する」問題。
○「連立二元一次方程式」の問題や「平行移動した図形」を描く問題。

【改善策】
○グループ学習の時間を充分に確保し，各自の思考が深まることができるような課題を工夫する。
○基礎学習の時間を利用して，苦手分野の問題に取り組ませる。
○ベル学習として取り組んでいる毎時間の小テストを継続し，基礎の計算力をつける。

【理科】　観点別では，「思考」「技能」「知識」の3観点とも県平均を上回っている。無答率の割合も県平均よりも少ない。ただ，記述形式及び短答形式の無答率が高い。

【正答率が低かった問題】
○計算をともなう問題に対する苦手意識を持つ生徒が多い。
（オームの法則　質量パーセント濃度の計算　溶解度に関する問題等）
○「雲のでき方の誤記を指摘し正しい文に直す」問題
○問題文や図表等の読解や理解が不十分なための誤答が多いように思われる。

【改善策】
○定期テストにおいて，読解力や活用力を問う問題を多く取り入れるようにする。
○日頃の授業において，実験方法や検証方法を考えさせたり，実験の条件制御を見当させたりする活動をこれまで以上に取り入れる。
○1年次の学習内容の定着を上げるため，ベル学の時間を有効に活用する。また，基本的な計算問題にも取り組ませるようにする。

【社会】　どの観点も，県平均を上回っているが，「社会科への関心・意欲・態度」が最も大きく上回っている。「思考・判断・表現」と「知識・理解」の観点が，県平均とほぼ同じである。

【正答率が低かった問題】
○「日本の気候の特色」における雨温図の問題。
○「古代から近世近代の基礎・基本となる歴史的事象の地理的位置」についての問題。
○「近世・近代の歴史分野での，基礎・基本となる歴史用語」に関する問題。

【改善策】
○歴史的分野において，資料を活用すること，そしてそこから自分の考えをまとめるという活動や，歴史用語を用いて歴史的事象をまとめたりする活動を増やす。
○基礎・基本的な歴史的事象の流れをおさえるため，ベル学におけるドリル学習を工夫する。
○個人作業の時間だけではなく，グループ活動などを通じて，資料をもとに意見交換を行える場面を増やす。また，他の生徒の考えやまとめ方を参考にできるような場を設定する。

【英語】　領域別では「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」と「表現の能力」の正答率は，県平均との差が大きい。「言語や文化についての知識理解」は，ほぼ同じ程度である。

【正答率が低かった問題】
〔聞くこと〕・「情報を整理しながら内容の要点」の聞き取り
〔書くこと〕・「状況に応じた英文」の書きかえ　　〔基本的文法事項〕〔語彙力〕

【改善策】
○「リスニング力」の向上のためと授業のウォーミングアップとして，毎時間リスニングを取り入れる。
○「基本文ディクテーション」を活用して「聞き取る力」と「書く力」の両方の向上を図る。
○放課後学習を活用して，1・2年時に学習した範囲の定着を図る。
○1・2年次の教科書を全員が音読できるよう，音読チャレンジを実施する。